



## 第12回全日本高校模擬国連大会レポート

NO.62

11月17日（土）～18日（日）に東京渋谷区の国連大学にて、書類選考を通過した全国から86チーム172名が参加して全日本高校模擬国連大会が開催されました。本校からは高校2年1組の三浦紘君と高校1年3組の岡本大輝君のペアがマレーシア大使として出場しました。今年の議題は「武器移転」で2つの議場に分かれて活発な議論が交わされました。残念ながら国際大会への出場権獲得には至りませんでした。1カ月半に及ぶ長期の研究をして会議に臨んだ経験からは収穫も多かったことと思います。両名から原稿を寄せてもらいましたのでご覧いただければ幸いです。



左 高1 岡本 君

右 高2 三浦 君

そもそも今回の議題の「武器移転」とは何を話し合うのでしょうか？

大会の約1カ月前に事前学習の参考になる「議題解説書」という書面がデータで公開されます。それを基本にして自分たちが担当する国がどんな政策を取るかをさらに深く調べていきます。

武器などこの世になれば平和になると誰もが考えると思いますが、残念ながら世の中そこまで単純ではありません。日本で暮らしていると感じることはないと思いますが、海外では自分の身を守るためのライフル銃のような「通常兵器」はビジネスとして他国へ売られており、完全に違法とは言い切れないのが現状です。また国としてもテロの脅威から国民を守るために一定の武器を保有する必要性もありつつも、何の罪もない国民が命を落とすことにもつながり、武器に対する温度差は国によってかなり違うと言えます。昨今は3Dプリンターで武器が簡単に人の手に渡ってしまう環境にあることも御存じだと思います。この複雑な議題に対して国際社会として何らかの合意点を見出そうとするのが今回のテーマです。

模擬国連とは...

模擬国連とは参加者が決められた国の大使になりきって国際問題について議論を交わしながら国連を模擬するものです。その中で、英語でのスピーチや日本語での交渉を繰り返しながら決議案をまとめていきます。

高校2年1組 三浦 紘

11月17、18日に全日本高校模擬国連大会（全日）に参加しました。残念ながら賞を受賞することはできませんでしたが、この大会を通してたくさんの経験をすることができました。

この大会の準備は今年の夏に始まりました。夏休み中に、全日に参加するための書類選考の課題をペアの岡本君と書き進めました。10月末には練習会議に参加しましたが、岡本君と一緒に参加するのが初めてだったということに加え、僕たちの準備・実力不足で何もできませんでした。11月に入り、準備も本格的になり、睡眠時間を限界まで削って作業をしました。僕にとっては最後の全国大会ということもあって今までの何倍も準備に時間と労力を注ぎました。自分たちの政策のニュアンスなど細かなところもペアと共有するために、休みの日も集まって作業したり、会えない時は電話をしながら作業もしました。

会議1日目は岡本君と協力してグループをまとめることができましたが、会議2日目は議場の流れに乗り遅れてしまい、うまく会議を進めることができませんでした。

会議を終えて振り返ってみると、悔しいことや辛いことはたくさんあります。しかし、それと同時に、この会議で得たものも多くありました。その一つとして、自分に少し自信を持てるようになったことです。僕は今までペアに頼ってしまうことが多かったのですが、今回は自分から率先してやらなければならないというプレッシャーもあり、積極的にチャレンジしたことが、自分を少し成長させたのだと思います。

僕が去年の冬に模擬国連を始めてから、そろそろ一年が経ちます。友達に誘ってもらい始めた模擬国連に、正直ここまで没頭してしまうとは想像もしていなかったし、始めた時は全国大会に出られるとも考えていませんでした。何かに熱中して最後までやりきったときの楽しさを十分に味わうことができました。この一年間本当に楽しかったです。

最後に、この大会に参加するにあたって、たくさんの人に支えてもらいました。グローバル部の仲間はずっと僕の相談にのってくれてとても心強かったです。岡崎先生には土日の二日間、終日引率していただきました。この場を借りて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

高校1年3組 岡本 大輝

今回、僕たちは模擬国連の全国大会に参加してきました。この大会には、全国大会というだけあって、日本中から高校生が集まっていました。

模擬国連の全国大会はほかの会議とは違い、会議中に活躍ができると（会議の終わりに発表される賞をもらえた場合）、ニューヨークでの世界大会に参加する資格が与えられます。おそらく、日本大会に参加する大使の多くは、ニューヨークでの大会への参加を夢見て参加するのでしょうか。そのため、会議は普段の練習会と比べ、相当ハイレベルなものになります。

大会が行われる国連大学に足を踏み入れた瞬間、いつもの練習会とは明らかに雰囲気が違うことに気づきました。みんながみんな、この会議に向けて相当のリサーチをしてきて、努力してきたのだということが、周りの大使から伝わってきました。今までの会議では感じたことがないほどの緊

張感が議場に漂っていました。

結果から言うと、もともと目指していた賞を取ることはできませんでした。この会議への準備にかなりの時間を費やしてきてただけに、ものすごく悔しいです。しかし、僕は、この会議に向けた準備過程、実際の会議中に多くのことを経験でき、学ぶことができたと思います。例えば、これについてはかつて飯野先輩もグローバル通信に書いていましたが、周りの強豪校に知識で勝つのは難しいです。そのため、僕は、できるだけグループ内の大使を、それぞれのアイデアを最大限に尊重するように注意し、まとめることにしました。先輩方にも多くのアドバイスをいただき、練習もしました。しかし、その中でも、賞に届かなかったのは、客観的に見てまとめ方や会議行動に不十分な点があったのだと思います。それらが何だったのかを自分で理解し、今後の会議に活かしていきたいです。

最後に、今回の会議にあたって、一緒にペアを組んでくださった三浦先輩、たくさんのアドバイスをくださったグローバル部の皆さん、ご協力してくださった先生方、本当にありがとうございます。

## Malaysia

マレーシアは現在テロの温床となりつつあります  
テロをなくすために、協力しましょう！

### 論点1: 透明性を確保する

- ①ATTへの参加とUNROCAへの報告を促す
- ②キャパシティビルディングも同時に行う

途上国への援助を行うことですべての国がATTへ参加、そして、UNROCAへ報告することができる状況を作り出す。

※途上国の資金が過剰に武器移転に使われ、発展が妨げられないように十分考慮する。

### 論点2: 違法な武器の取引を根絶する

- ①世界的に規制方法を統一する  
統一しないと規制の抜け穴ができてしまう
- ②INTERPOLと協力して他国の警察とも連携して調査や監視、また情報共有などを行う

※政府の統治・治安維持能力の低い国家への武器移転は、武器が違法で出回りやすくなり、人権侵害につながりかねないということに留意する。

各校の生徒は事前に自分の担当国の基本政策を左記のような「交渉ペーパー」という用紙にまとめて会議の数日前に公表されます。これを参考に自国と考えの近い国はどこかを見極め会議当日にはグループ形成を目指します。

事前交渉ができないようにどの学校の生徒がどの国を担当するかは会議当日まで明らかにされないルールになっています。

二日間よろしくお祈りします！

## 海外で学ぶ短期プログラム（中学3年生対象）

名称：FLY ボストンプログラム（ISA 主催）

日程：2019年3月25日（月）～4月2日（火）9日間

訪問地：アメリカ、マサチューセッツ州ボストン

人数：22名（他校の生徒も参加します）

費用：48万8千円（燃油サーチャージ代金9月現在2万8千円、保険、渡航手数料等は含まれていません）

### 主な内容

- 1) マサチューセッツ工科大学、ハーバード大学訪問
- 2) サイエンスワークショップへの参加
- 3) 現地中学高校訪問
- 4) ホームステイ（週末3泊）
- 5) ボストンウォーキングツアー

本校の期末考査直前となりますが、12月9日（日）にプログラム説明会が開催されるそうです。最終申し込み期限は12月13日だそうです。問い合わせ、申し込みは学校を通さずにご家庭と主催団体とで行っていただきます。

プログラム概要を記載されたチラシが届いていますので、希望者に差し上げます。興味のある生徒は3号館1階グローバル教育部の部屋まで取りに来て下さい。（金曜日は常駐する担当教員が不在となります）